



Izumi Hall

NEWS RELEASE

生涯 200 年 リスト～時代を拓くピアノ

リストが愛したピアノで聴くロマン派の名曲

昨年のいずみホールでのショパンシリーズで、作曲家が愛用したプレイエル・ピアノを演奏し「作曲家の表現したい音楽を肌で感じた」菊池洋子が、本シリーズでもふたたびオリジナル楽器に挑戦します。エラールは、当時としては最新鋭の機構を備え、充実した響きを持ち、技巧が生きる楽器としてリストは大きな信頼を置いたのです。このエラールがあつてこそ、ピアニストとして、また作曲家として、リストはその真価を発揮したといえるでしょう。

リストとも親交深かったシューマンの大作「交響的練習曲」とともに、有名な「ラ・カンパネラ」、「愛の夢第3番」が当時の響きで再現されます。「ラ・カンパネラ」に類出する早い同音の連打は、エラールが開発したダブル・エスケープメント機構が可能にしたともいえます。

扱いの難しいオリジナル楽器と、現代のピアノとを軽々と弾きこなす菊池洋子。ごく自然にそれぞれの楽器と作品の個性を引き出す音楽性は、名曲からどのような魅力を再発見させてくれるのでしょうか。

Vol.3 菊池 洋子

—親交深かったシューマンとリスト。エラールの響きとともに—

<日時> 2011年10月14日(金) 19:00

<出演> 菊池洋子(ピアノ)

※1852年 ロンドン製 エラールピアノ使用(ヤマモト・コレクション)

85鍵 長さ2380mm 幅1370mm

ダブルエスケープメントエラールパテントアクション テンションバー 5本

<曲目> シューマン:アラベスク ハ長調 op.18

交響的練習曲 op.13(1837年版/遺作つき)

リスト:ウィーンの夜会 ~シューベルトのワルツ・カプリス 第6番

パガニーニ大練習曲 第3番 嬰ト短調「ラ・カンパネラ」

エステ荘の噴水 ~巡礼の年 第3年 より

愛の夢 第3番

ドン・ジョヴァンニの回想

<料金> 一般¥4,000 学生¥2,000 Vol.1~3のセット券¥12,000

【ユースシートにご招待】 好評につき2011年度も継続します。

対象:小学生以上18歳以下(公演当日、年齢の確認できるものをご持参下さい)

いずみホールチケットセンターにて受付、限定26席(お席お選べません)、先着順

※大阪府の条例により16歳未満の方は保護者同伴でご来場下さい。(同伴者のチケットは別途お買い求め下さい)

主催:いずみホール[財団法人 住友生命社会福祉事業団]

◆ チケットに関するお問い合わせ・お申し込みは「いずみホールチケットセンター」

TEL(06)6944-1188

◆ 公演内容に関するお問い合わせは「いずみホール広報担当:森岡」までお願い致します。

TEL(06)6944-2828



<プロフィール>

菊池洋子 (ピアノ) Yoko Kikuchi, Piano

菊池洋子は、2002年第8回モーツァルト国際コンクールにおいて日本人として初めて優勝して一躍注目を集めた。その後、2003年にザルツブルク音楽祭のモーツァルト・マチネに出演するなど国内外で活発に活動を展開し、いまや実力・人気ともに日本を代表するピアニストの一人である。

これまで、国内の主要オーケストラとの共演はもとより、国際的にもリサイタル、オーケストラとの共演、室内楽演奏会で成功を収めている。とりわけ、2004年ライブツイヒ弦楽四重奏団との日本ツアー、オーケストラ・アンサンブル金沢のアジア・ツアーのソリスト、アフラートゥス・クインテットとの共演及びレコーディング、2008年アンサンブル・ウィーン=ベルリンメンバーとの共演、2009年には、モーツァルトのピアノ・ソナタ全曲をフォルテピアノとモダンピアノを用いて演奏するといった意欲的な企画に取り組み好評を得た。2010年春には、チューリッヒ・トーンハレでのリサイタルが絶賛を博し、ホルンの名手ラデク・バボラークとレコーディングを行った。

また、CD録音も活発に行い、モーツァルト・アルバムをエイベックスより3枚、オクタヴィアより室内楽アルバムをリリースしている。第17回出光音楽賞受賞。

オフィシャルホームページ：<http://www.yokokikuchipf.com/>

Message from Artist

去年に引き続き、いずみホールの素晴らしい音響の中、今年はエラールを使用して演奏できます事を心から嬉しく思っています。去年はプレイエルを使いショパンを演奏させていただき、ショパンの時代の楽器に触れ、ショパンの表現したかった音楽を肌で感じる経験ができました。今年は親交の深かったシューマンとリストでプログラムを組み、シューマンの代表作の一つである交響的練習曲、リストは愛の夢やカンパネラといった名曲やダイナミックなドン・ジョヴァンニの回想など、ロマン派の魅力たっぷりの選曲です。エラールの魅力的な音と共に今年もどんな嬉しい驚きと発見に出会えるか今から演奏会がとても待ち遠しいです。

菊池洋子

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------------|
| Vol.1 | 9月30日(金) | 19:00 | ケマル・ゲキチ |
| Vol.2 | 10月6日(木) | 19:00 | ボリス・ベレゾフスキー |
| Vol.3 | 10月14日(金) | 19:00 | 菊池洋子 |
| Vol.4 | 11月2日(水) | 19:00 | 横山幸雄 |
| Vol.5 | 11月20日(日) | 14:00 | ヴァレリー・アフアナシエフ |
| Vol.6 | 12月2日(金) | 19:00 | ジャン=マルク・ルイサダ |
| Vol.7 | 12月16日(金) | 19:00 | ゲルハルト・オピッツ |

エラールグランドピアノについて

(10/14 菊池洋子公演にて使用)

山本宣夫

1700年ころのパルトロメオ・クリストフオリ発明の最初のピアノの出現以来、ピアノは、その音域の拡大と音量の増大がはかられ、19世紀中ごろには、現代の姿に到達しました。そのピアノの製造史のなかでも、エラールの名は忘れることはできません。なぜなら、1821年、エラールによりダブルエスケープメント機構なるものが発明され、これが現在の総てのグランドピアノの打弦機構の基礎となったからです。この機構の最大の特徴は、レペティションレバーを備えていて、この部分の働きによってハンマーは速やかに反復して同じ音を打弦できるようになり、容易に連続して同じ音を鳴らせるようになりました。すなわち、この機構により、打鍵した指を完全にキーから離さなくても、ハンマーは確実に動き打弦するので、反復打法や敏速な奏法も可能となるのです。

ところで、私は10年ほど前、この1852年製のエラールグランドピアノをロンドンより入手しましたが、そのいきさつは、少しドラマチックでした。それ以前に、私はショパン・リストたちが愛したエラールピアノを探して、パリ中のピアノ工房を訪ね歩いたことがありましたが、その時のエラールピアノには、すでにひどい修復がなされていたりして、とうとう気に入るものには出会うことができませんでした。それらのピアノは、私の理想とするオリジナルの状態を失ってしまっていたのです。

そうこうしているうちに、ロンドンの楽器商から、エラール1852年製のものが見つかったとの情報が飛び込みました。このエラールグランドピアノは、前年1851年にロンドンの大英博覧会で金メダルを獲得したのと同じモデルで、ピアノ本体の外装には、ブラジルの貴重なローズウッド材が使われているとのこと。持ち主については明らかにされませんでした。このような高価なピアノを所有できるのは、きっと貴族か富裕な身分の人物にちがいありません。ロンドン郊外の館に置かれていたらしいのですが、連絡は先方からのみで、こちらからの連絡は取れないという。入手できるという返事が来るまで、まさに恋人からの手紙を待つ思いでした。1年後によく連絡が入り、とうとう日本の私のもとにやって来ることになりました。

その後、私はさっそく修復に取りかかりました。すべてがオリジナルの状態、部品の交換などは不要であったものの、演奏可能な状態にするには、大変な時間を要しました。念入りの修復が完了した結果、このエラールは、まさに私の思い描いていた音を響かせました。なかでもきわだった特徴はというと、低音弦の巻き線に、銀線が巻かれていますので、通常のように銅線が巻かれているのに比べると、輪郭のはっきりした芯のある音が出ます。そして、高音域はというと、リストのラ・カンパネラうってつけの響きを奏できます。



1852年 ロンドン製 エラールピアノ
(ヤマモト・コレクション)

85鍵 長さ2380mm 幅1370mm
ダブルエスケープメントエラールパテントアクション
テンションバー 5本